

山形大学広報誌

みどり樹

Yamagata University Quarterly Magazine

Midori^{gi}

vol.43
Spring 2010



特集

山形大学創立六十周年を祝して
誇りと感謝を胸に飛躍を誓う。

男女共同参画推進室訪問

理想の男女共同参画とは。
さまざまな取り組みを通して
学内外の意識改革を推進中。

山形大学創立60周年を祝して 誇りと感謝を胸に飛躍を誓う。

山形大学が新製の国立大学として発足したのは1949(昭和24)年。
去る3月13日には創立60周年の記念行事が執り行われました。
一般にも広く公開された記念式典、学術講演会には多数の参会を賜り、
人々の山形大学に対する関心や期待の大きさを窺い知ることができました。
特に、ノーベル賞博士をお迎えしての学術講演会では、世界レベルの話題で聴衆を魅了。
「地域に根ざし、世界を目指す」をスローガンとする本学の
新たな門出に相応しいキラリと光る晴れやかな一日となりました。

学長式辞

地域に根ざし世界を目指して、さらなる進化の時。

結城章夫 山形大学長

山形大学は、昭和24年5月31日に公布された「国立学校設置法」によりまして、旧制山形高等学校、山形師範学校、山形青年師範学校、米沢工業高等専門学校及び山形農林専門学校の5校を受け継ぎ、文理学部、教育学部、工学部、農学部、の4学部からなる新製の国立大学として設置されました。その後、昭和42年に文理学部を人文学部と理学部に改組するとともに、昭和48年には医学部を設置し、現在の6学部体制の根幹が出来上がりました。山形市、米沢市、鶴岡市にある4つのキャンパスで約1

万人の学生が学んでおり、卒業生は約8万1000人にのぼり、各界各層のリーダーとして活躍されております。

本学は、平成16年に国立大学の法人化という一大転機を経験し、来年度からは国立大学法人としての第二期中期目標・中期計画が始まります。「山形大学の将来構想」では、5つの基本理念と、本学が今後進むべき方向性が示されております。特に、教育の面では、今度の4月の新入生からカリキュラムを抜本的に改革した新しい教養教育を「基盤教育」として提供し、人生を豊かに生きていくための強い「人間力」と、優れた専門能力を身につけた人材を社会に送り出していきたいと考えております。

研究の面では、総合大学のメリットを活かした学際的な研究を展開するとともに、最先端の研究を推進してまいりました。現在、分子疫学、有機エレクトロニクス、核

子スピン等の分野で世界的な研究拠点を着実に形成しつつあります。

また、山形大学は、地域医療や教員養成の中核を担うとともに、企業の経営者や技術者、地方自治体の幹部公務員、農業の指導者などを多数輩出してまいりました。これからも、この地域にしっかりと根ざして優れた教育を実践し、地域に貢献してまいりたいと考えております。

現在、本学では22カ国から約200名の留学生を受け入れています。今後も、海外との学術交流や教育交流を通じて、東北地方における国際交流拠点としての機能を高め、人類共通の課題の解決に貢献するとともに、グローバル化時代に活躍できる人材の育成に努めてまいります。

このたび還暦を迎えた山形大学は、「地域に根ざし、世界を目指す」をモットーに、次のステージへと進化してまいります。



結城章夫

ゆうきあきお ●山形大学長／山形県出身。東京大学工学部物理工学科卒業、米国ミシガン大学大学院原子力工学科修士(工学修士)。科学技術庁入庁、文部科学省大臣官房長、文部科学事務次官等を歴任の後、2007年9月より現職。

ノーベル賞博士・小林誠氏による記念学術講演会「研究生生活を振り返って」

ノーベル賞受賞の研究が生まれた背景と要素について。

小林誠 日本学術振興会理事・高エネルギー加速器研究機構特別荣誉教授

山形大学創立60周年の記念式典に引き続き行われた記念学術講演会では、2008年に「クォークが自然界に少なくとも三世代以上あることを予言する、対称性の破れの起原の発見」によりノーベル物理学賞を受賞された小林誠氏が「研究生生活を振り返って」と題して講演を行った。冒頭、小林先生は本学の創立60周年への祝辞を述べられるとともに、山形大学とのつながりについて話をされた。小林先生が理事を務める日本学術振興会が小学校5・6年生、中学生、高校生を対象に主催している「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」というプログラムに本学工学部の城戸教授が協力しており、その縁で半年ほど前にも米沢を訪れたばかりだという。ノーベル賞博士と山形大学が科学で繋がっている、そんな印象を受けてうれしい気持ちになり、だれもが小林先生の講演に自然に引き込まれていった。

大学時代、素粒子の理論が大きく書き換えられる時期に遭遇

「ノーベル賞受賞の研究が生まれた背景、要素についてお話ししたいと思います。それがそのまま何かに当てはまるわけではありませんが、みなさまにとって何らかのヒントになれば、ケーススタディの一つとしてお聞きいただければと思います。」と、とても穏やかな口調で講演は始まった。小林先生といえば素粒子ということで、講演を進めるにあたって素粒子の基礎は押さえて置いてほしいと、前置きとして話をされた。



ノーベル賞授賞式を終え、メダルを手にする(左から)物理学賞の小林誠氏と益川敏英氏[京都産業大学教授]、化学賞の下村脩氏[元米ウッズホール海洋生物学研究所上席研究員](2008年12月10日午後、スウェーデン・ストックホルム市内のコンサートホールにて撮影)

物質を構成するのは原子で、その原子は原子核と電子で構成され、さらに原子核は陽子と中性子に分けられ……そして行き着く最小の単位である粒子が素粒子であるということ、クォークも素粒子の一種ではあるが、1個単独では自然界には存在できず、2個ないし3個が結合した複合粒子であるハドロンとして存在することなどを解説さ

らが複合模型からクォーク模型へと発展させ、アップ(u)、ダウン(d)、ストレンジ(s)の3つの種類を考えたと。さらに、同じ年にジェームズ・クローニンとヴァル・フィッチがCP対称性の破れを発見。後に、小林先生らが当時3種類しか見つかっていなかったクォーク(u、d、s)に、さらにチャーム(c)、ボトム(b)、トップ(t)の3つを付け



小林誠

こばやし こと ●1944年愛知県生まれ。1972年名古屋大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)、専門分野は素粒子理論。日本学術振興会理事、高エネルギー加速器研究機構特別荣誉教授。2008年ノーベル物理学賞、文化勲章受賞。

ノーベル賞受賞の研究が生まれた背景にあるものとしては時代的な巡り合わせや研究の場に恵まれたことなども重要。

れた。さらに、何を素粒子と呼び、どのように分類するかは、時代によって変遷してきたことなどについても触れられた。

いよいよ話は本題に入り、ノーベル賞受賞の研究が生まれた背景として小林先生は、時代的な巡り合わせや研究の場に恵まれたことをあげている。小林先生が生まれた1940年代を前後して陽子、中性子の発見、湯川秀樹博士の中間子理論の発表などが相次ぎ、物理学分野が活況を呈しはじめていた。さらに、1950年代に入って素粒子の複合模型(坂田模型)が発表され、小林先生が名古屋大学に入学した翌年の1964年には、アメリカの物理学者マレー・ゲルマン

加え、CP対称性の破れについては小林・益川理論によって理論づけられている。後にクォークの種類については、1995年に合計6種類あることが実験的に確認されている。そのほかにも、小林先生が名古屋大学に入学した時期に非可換ゲージ理論によって素粒子の理論が大きく書き換えられた。前述の坂田模型で知られる坂田昌一教授の研究室で学ぶことが出来たことにより、模型によって素粒子の全体像を理解しようという考え方を体得できたという。その後も、大学院修了後に助手となった京都大学ではともにノーベル賞を受賞することとなった益川敏英氏と再び出会っている。つまり、



学術講演会の様子。茨城県つくば市にある「高エネルギー加速器研究機構」で行われているBファクトリー実験の話など、専門性の高い話題にも聴衆は熱心に耳を傾けていた。

ブレイクスルーはどこにあるかわからない。だから、多様なアプローチを許容することによりブレイクスルーが生まれる。

素粒子研究に大きな変化、大きな仕事が集めた1970年代に出会うべき人に出会い、居るべき場所に居られることが出来たということのようだ。

Bファクトリーでの実験により証明された小林・益川理論

現在、小林先生が特別荣誉教授を務めている高エネルギー加速器研究機構(KEK)では、巨大な加速器と呼ばれる装置群を使って基礎科学の研究を行っている。加速器とは、電子や陽子などの粒子を光の速度近くまで加速して高いエネルギーの状態を作り出す装置で、高いエネルギーの粒子を衝突させ、宇宙誕生時に多数存在した粒子を発生させて反応を調べたり、ニュートリノを発生させてその振る舞いを調べたりするもの。とくに、Bファクトリー(B-factory)というB中間子と呼ばれるハドロンを大量に作り出す高エネルギー加速器施設があり、電子と陽電子を高いエネ

ルギーに加速させた後、両者を衝突させて、中性B中間子とその反粒子である反B中間子の対を生成させ、そのB中間子と反B中間子が短時間のうちに崩壊する様子のわずかな差を観測。B中間子におけるCP対称性の破れの詳しい研究が行われている。これらの実験結果によって2001年にCP対称性についての小林・益川理論の正しさが証明され、ノーベル賞受賞へとつながった。

講演のまとめとして小林先生は、「ブレイクスルーはどこにあるかわからない。それをカバーするには多様性が必要です。とはいっても、下手な鉄砲も……ではなく、どういうアイデアのもとどう成熟していくか、物事の進み方のパターンとして理解しておくことが大切です。」と静かながら熱く力説。努力すれば必ず成功するとは限らず、時代性やアプローチの仕方などにも左右される。逆に言えばだれにでも成功のチャンスはあるのだから、結果ではなくプロセス、意味のある試みを大切にしよう

にとアドバイス。そして「多様なアプローチを許容することによりブレイクスルーが生まれる」という象徴的な言葉で講演を締めくくられた。

高い専門性と真摯な人柄で聴衆との交流深めた質疑応答

その後に行われた聴衆との質疑応答コーナーでは、「科学は進歩しているのに閉塞感が漂う現代社会を科学者の立場からどう考えるか」との問いに、「私たち科学者も専門性に閉じこもらず、広い視野を持って新しいことに取り組むことによって何らかの打開策が見えてくるのではないだろうか」と、端的にして前向きな回答を寄せてくれた。また、「高校生の頃はどんな学生でしたか?」という質問には、「テニスばかりやっていました。受験が間近になってようやく勉強するようになりましたね。」と、幼い頃から科学、勉強一直線、そんな大方の予想に反した回答だった。比較的遅いタイミングで勉強に本気になってノーベル賞博士、小林先生がさらに凄い人に見えた瞬間だった。

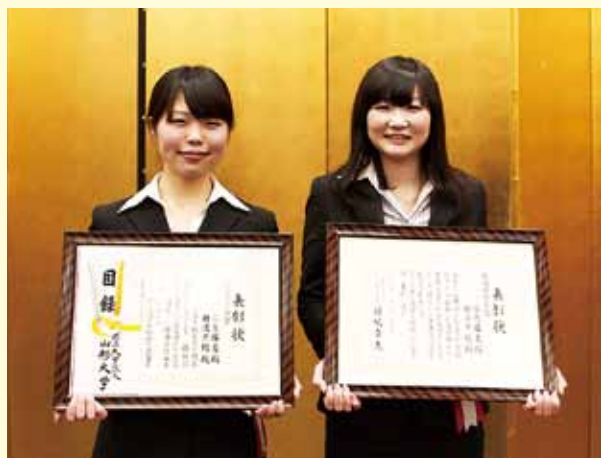
ノーベル賞博士をひと目みたい、素粒子研究の第一人者の話を聞きたい……さまざまなきっかけで集まった聴衆が広い会場を埋め尽くした。専門的な話題に目を輝かせていた将来は科学の道へ進みたいという高校生やかつて物理を学んでいたという年輩の方々。素粒子やCP対称性の破れといった専門分野にはまったく不案内ながら小林先生の真摯な語り口に熱心に耳を傾ける人々。この記念学術講演会によって、山形大学創立60周年はより印象深く、意義深いものとなった。



ノーベル賞授賞式から帰国、記者会見でメダルを手にする物理学者小林誠氏(2008年12月14日、千葉・成田空港にて撮影)

一般公募による「大学歌」制定

最優秀賞・優秀賞の表彰と「大学歌」披露



大学歌を作詞した地域教育文化学部4年の石先麻美さん(左)と難波千鶴さん(右)。



声楽専攻の学生による男女混声合唱で大学歌が披露されました。

山形大学創立60周年を記念して、新たに大学歌が制定されました。大学歌の歌詞を一般公募するという全国的にも珍しい試みに、全国からの応募が202作品。最優秀賞1点、優秀賞2点が選ばれ、記念式典で表彰式が行われました。最優秀賞は、山形大学地域教育文化学部地域教育学科4年の石先麻美さんと難波千鶴さんの共同作品。「山形の四季の移り変わりの中で日々変化、成長する学生たちのキラキラした姿を大切に描きました。最優秀賞に選ばれて、まだ夢の中にいるようです。山大での4年間の学びとこの賞を励みに、これから社会に出ていっそうがんばります」と喜びを語ってくれました。

さらに、作曲を担当された山形県出身の大谷靖夫氏も登場。「歌詞に込められた山形の風土を精いっぱい表現しました。これからずっと愛していただける曲になるよう願っています」とあいさつされました。優秀賞2名の表彰も行われ、最後に声楽専攻の学生による男女混声合唱で大学歌が披露され、記念式典を華やかに締めくくりました。

山形大学大学歌

(平成22年3月制定)

作詞 石先麻美・難波千鶴
作曲 大谷靖夫
編曲 中村康就

♩ = 73

1. はるかぜに - きぼうをの - せて - さくら の ひかり - あおぎ - みる
2. ちをふかく - まことをも - とめ - かな た り あ か そ う - つどい - きて
3. はるかなる - みらいをて - らし - な が れ る か わの - たえま - なく

- わ か し の の み ど - り きらめ - いて - ち か ら み な - ぎる
- ほ し の まい た - き おもい - はせ - ち な び を ひ - らく
- ひ び を い た る ゆ き も - よう - まじ だ い を に - なく

- わ か き ひ - どみ - けつ い を む ね に - て
- つ よ き ひ - どみ - れ を し ん じ - す
- あ か き ひ - どみ - ゆめ を い だ きて - は

を つ な ぐ わ れ ら - が ま な び や - - や ま ま が た だ い - が
す み ゆ く わ れ ら - が ま な び や - - や ま ま が た だ い - が
ば た こ う わ れ ら - が ま な び や - - や ま ま が た だ い - が

3.
く
が た だ い - が く

- | | | |
|--|--|--|
| 1. 春風に 希望をのせて
桜の光 仰ぎ見る
若葉の緑 きらめいて
力みなぎる 若き瞳
決意を胸に 手をつなぐ
我らが学び舎 山形大学 | 2. 知を深く 真理を求め
語りあかそう 集い来て
星のまたたき 想い馳せ
学びを拓く 強き瞳
己を信じ 進みゆく
我らが学び舎 山形大学 | 3. はるかなる 未来を照らし
流れる川の 絶え間なく
日々を彩る 雪模様
次代を担う 明き瞳
夢を抱いて はばたこう
我らが学び舎 山形大学 |
|--|--|--|

人文学部

Faculty of
Literature and Social Sciences

長井市と山形大学人文学部が 連携協定を締結！



1月6日(水)、山形県長井市と山形大学人文学部は、相互が有する人的・物的資源を有効活用し、地域社会の発展と人材育成に寄与するとともに相互の発展を目指し連携協力を行うための協定を締結しました。

人文学部としては、きらやか銀行、蔵王温泉観光協会に続き3件目の連携協力協定の締結となりますが、地方公共団体との連携協定は今回の長井市が初めてとなります。協定の主な内容は以下のとおりです。

(1) 教育、文化、地域の振興に関する協力

(2) 人材育成、国際交流に関する協力

(3) その他、連携協力することが必要と認められる事項

今後は、協定に基づき、人文学部側は同市の地域課題の解決に向けての審議会などへの教員派遣、学生と市民との交流などを進め、長井市側は学生のインターンシップの受け入れや同市をフィールドにした研究の斡旋などを行うことにしています。双方が緊密な連携と協力を図ることにより、共通の課題に適切に対応可能となります。

「新聞紙でつくる椅子」の研究作品が スウェーデン大使館で公開されました

地域教育文化学部

Faculty of
Education, Art and Science



2月1日(月)～5日(金)にかけてスウェーデン大使館において、文化創造学科の齋藤学准教授の作品「家具のためのファンタジア#02/vol.2」が展示されました。この展示会は、ボルボ・カーズ・ジャパンが芸術文化支援事業として主催する「アート&デザインコンペティション2009」の入賞作品(同社2010年版カレンダーに掲載)を一般に公開したものです。

齋藤学准教授は'04年から古新聞を用いた家具制作を始め、メディアとしての使命を

終えた新聞紙に「紙」としての物質的な使命を全うしてもらうことをコンセプトに開発を行っています。受賞作は約1ヶ月分の古新聞を用いた児童サイズですが、現在は約3ヶ月分を用いた普通サイズでの試作(強度実験)が終わり、座り心地の改良に取り組んでいます。

作品は、平成22年度本学部公開講座「Let's try!! もの作り教室」(詳細14頁参照)において、紙の強さを体感する実験工作の中でも紹介されます。

理学部

Faculty of Science

山形大学総合研究所に 高感度加速器質量分析装置(AMS)を導入



高感度加速器質量分析装置(AMS)

山形大学では、上山市にある山形大学総合研究所に高感度加速器質量分析装置(AMS)を導入しました。AMS装置の導入は、東北・北海道地区の大学として初めてです。この装置は、微量試料中に存在する極微量の炭素同位体元素一炭素14(6個の陽子と8個の中性子の合計14個の核子で構成され、その存在比は炭素12の1兆分の1)を高精度かつ短時間に測定することができます。

この炭素14は不安定で約5,730年の半減期で窒素14に壊変し、時間とともに一定

の割合で減少するため、その存在比を測定する炭素年代測定法によって、動植物由来試料の年代を決定することができ、考古学に代表される人類の文化と歴史の研究、そして宇宙科学や環境科学研究に幅広く利用されています。

理学部では、今後、物理学の門下冬樹准教授が中心となり、汚染物質調査による環境問題研究や埋没木片・古木群調査による地質学・地震災害学研究などを推進していく予定です。

山形大学医学部独自の「ドクター称号」 臨床実習の学生に認定証を授与

医学部
Faculty of Medicine

1月18日(月)、医学部大講義室において、「Student Doctor 認定証授与式」を開催しました。「Student Doctor」とは、共用試験及び移行試験の判定に合格した4年生に対して、山形大学医学部として認定するもので、昨年の1月から導入したものです。臨床実習に入る学生に実習中に学生が医行為をすることに対して、大学としての姿勢や責任を示すこと、また、医学部の指導体制や教員の指導力向上を図ることもねらいとしています。

当日は、医学部長、附属病院長、各講座の教授、指導教員、看護部長並びに附属病院の看護師等が列席する中、合格した4年生101名が白衣に身を包み出席しました。厳粛な雰囲気の中、嘉山医学部長のあいさつの後、学生代表である樺澤崇允君に認定証が渡されました。これまで4年間で学んだ医学的な基礎知識を基に、いよいよ臨床の現場において実習することになります。将来の医学・医療を担う人材がここ山形から一人でも多く育つことを期待します。



工学部

Faculty of Engineering

工学部キャンパス内に雪灯籠を製作しました

平成22年2月10日(水)、12日(金)の2日間、工学部キャンパス内に2基の雪灯籠を製作しました。

工学部では、例年上杉雪灯籠まつりの開催に合わせ、キャンパス内に雪灯籠を製作しています。雪灯籠は、まず踏み固めた雪の上に4枚のコンパネを四角に立て、中に雪を入れて踏み固めて長方形の雪の固まり(トーフ)を作ります。出来上がったトーフを1日置いて固めた後、型を当てて灯籠の形に雪を削れば完成です。

雪灯籠製作には、約40人の学生や教職員が参加しました。集まった方々のほとんどが雪灯籠製作は初めてということでしたが、説明を聞きながら活き活きと作業をしていました。雪に足を取られて転びそうになる人、真剣な表情で雪を削る人など様々でしたが、皆雪国ならではの行事を満喫していたようです。

辺りが暗くなれば、2基の雪灯籠の中にロウソクが灯され、幻想的な光で道を歩く人々の目を楽しませました。



農学部

Faculty of Agriculture

平成21年度地域連携推進協議会を開催しました

2月26日(金)、農学部会議室において平成21年度地域連携推進協議会を開催しました。

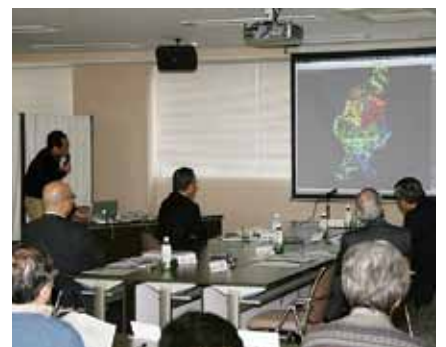
地域連携推進協議会とは、山形大学農学部が、地域の皆様とともにより一層発展・充実していくために設けられた委員会で、農学部の教育、研究、社会貢献、管理運営についての助言及び評価をしていただくことを目的に、平成19年度より開催されています。

会議では、農学部の現状と今後について説明があり、続いて農学部の分野別実績状

況として教育、研究、地域連携及び国際貢献について報告が行われました。

実績報告の内容について、委員の皆様からは忌憚のないご意見やご質問が相次ぎ、大変有意義な会議となりました。

農学部では、本会議の提言を踏まえ平成20年7月に企画広報室を設置する等、今後も地域の発展・活性化に寄与すべく、皆様から頂戴したご意見をもとに人材育成及び研究成果等を通して地域の活性化に前進して参ります。



理想の男女共同参画とは。
さまざまな取り組みを通して
学内外の意識改革を推進中。

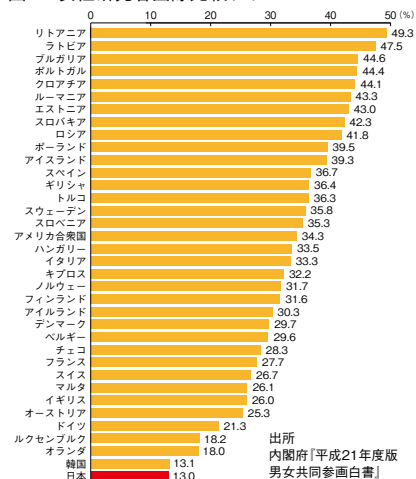
木村松子／幅崎麻紀子／坂無淳 男女共同参画推進室コーディネーター



すべての学生と教職員が、
性別にかかわらず
個性と能力を発揮できる大学へ

山形大学は、「男女共同参画社会基本法」
や「男女雇用機会均等法」の理念と国の施策
を受けて、昨年1月、「山形大学男女共同
参画推進宣言」を発表し、多様な価値観に

図1 女性研究者国際比較グラフ



基づく教育・研究の推進に積極的に取り組
んでいくことを宣言した。その実践に向
けて組織されたのが男女共同参画推進室
である。北野通世室長(総務担当理事・副学
長)と10名の室員からなり、その内3名の
専任スタッフが常駐している。

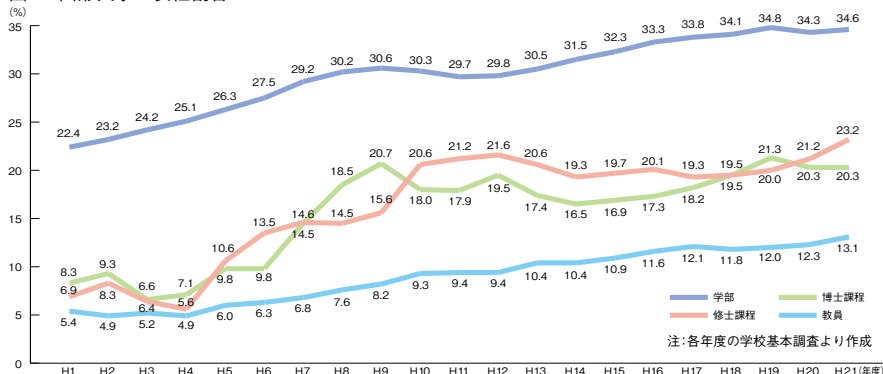
これまでの取組

山形大学では、中期計画(第1期)にお
いて、「教員構成の多様化を推進するため、
外国人・女性等の積極的な採用」の実現を定

めた。日本の女性研究者比率は先進国の中
では最低レベル(図1)で、山形大学もその
例外ではなかったからである(図2)。

平成20年11月、河田純男理事を室長
とし、5名の中心メンバーと各学部推薦の
女性研究者からなる男女共同参画推進準備
室が発足。女性研究者支援に向けてアン
ケート調査の実施、シンポジウムの開催等
を行ってきた。21年2月には男女共同参
画推進室へと発展的に改組し、「山形ワー
クライフバランス・イノベーション」事業を

図2 山形大学の女性割合



山形大学
男女共同参画シンポジウム in 2010
見つけよう!あなたのワークライフバランス

地域社会のリーダーとして
ワークライフバランスを実現し
男女共同参画を推進する大学へ。

男女共同参画シンポジウム in 2010 リポート

有賀早苗氏(北海道大学副理事・女性研究者支援室長・大学院農学研究院教授)からのメッセージ

男女共同参画事業は、さまざまな問題が絡んでくるので急進は難しい分野です。山形大学では、それをよく理解しており、アンケート調査や巡回聞き取り相談を丁寧に行うなど、きちんと時間を掛けて進めているので非常に感心しています。「見つけよう!あなたのワークライフバランス」というシンポジウムタイトルも押しつけるのではなく、ヒントを与えてくれている感じで素敵です。私自身、研究だけでも大変なのに育児や介護に追われた十数年間を経験しています。そんな時、寄りかかるのではなく、ちょっとした支えがあるだけで頑張れるんです。いろんな方々が聞く耳を持って事にあたっているという点で山形大学の取り組みには大いに期待しています。



託児サポーター制度の様子

開始した。同年4月には学長を委員長とする男女共同参画推進委員会を設置。5月に、同プランが文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択されて、男女共同参画の推進と女性研究者支援に弾みがかかったのである。

「山形ワークライフバランス・イノベーション」の推進

昨年11月の教職員アンケート調査から、家事・育児・介護にかかる時間は女性の方が多いことが分かった。また昨年11月から

始めた各キャンパスの巡回相談から、研究のために結婚・出産を諦めている女性研究者がいることも分かった。女性研究者の働きやすい職場は、男性にとっても働きやすい。そのためには、仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を実現していかなければならない。

意識改革セミナー・巡回相談・託児サポーター制度などの女性支援策

まず、管理職の意識改革から始め、セミナーを2回実施した。12月からスタートした学生と保育士による託児サポーター制度は、仕事なが引く予定があり託児に困る教職員を支援するものだ。研修を受けた学生による託児は東北初の取組とあって地元メディアで取り上げられ関心を集めたが、時間や曜日に限界があり充分ではない。しかし、育児に対する大学の制度的サポートの実現は大きな一歩。今後は病児保育等も検討していかなければならない。巡回相談は継続していき、孤立しがちな女性の声を

聞いていく。

男女共同参画社会を担う若者の教育と女性研究者裾野拡大

性別に基づく固定的な役割分担意識にとらわれず、人権尊重を基盤にした男女平等観とキャリアビジョン形成のため、教養セミナー「ウーマン・オブ・ザ・ヤマガタ」の授業、女子高・大学生のためのキャリア・セミナーを実施してきた。男女共に保育の経験も貴重であることから、今年度も託児サポーター研修の参加者を募っていく。

今後の取組

男女共同参画の一層の推進と女性研究者支援を全学的な取組とするために、各学部 の推進組織による目標設定と具体的な計画立案を支援し、連携して実行していく。育児・介護期の研究支援や研究相談のためのメンター制度の開始、恒常的な学内保育施設の整備などを着実に進めていくため、活動は一段と熱気を帯びてきている。



山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1

地元テレビ局のアナウンサーとして活躍中の佐々木さん。担当するニュース番組のセットの前とあってにこやかながら引き締まった表情。「取材を受けるのって緊張しますね」と取材をする方がラクとアピール。



2

2

担当する夕方のニュース番組のワンシーン。パートナーの飯岳コメンテーターも山形大学出身。山大OB、OGの輝かしいツーショット。ニュースに山大的話題が登場すると「私たちの時代は～」といった話で盛り上がる。



3

佐々木さんのおしゃべり、表情をたくさんのモニターが捉える。一般の人にはあまり馴染みがないテレビの裏側。いい番組づくりのために、佐々木アナは周囲のスタッフといっしょに見えない所でもがんばっている。

普通の女子大生とは一線を画したバイト漬けの日々、 学業との両立に必死だったあの頃があるから今がある。

自立の成果

佐々木瞳 アナウンサー

学費だけで済むからと地元秋田の大学に進学するつもりでいた佐々木瞳さんが、山形大学を選んだのは、秋田大学に希望する人文系の学部学科がなかったから。人間の営みや文化、歴史などを学びたかったのだ。生活費は自分で稼ぐという条件を自ら申し出て両親を説得し、隣県の山形大学に進学。アルバイトと学業の両立を計るため、サークル、飲み会を楽しむ余裕などなかった。それでも両親には心配をかけまいと、授業にはまじめに出席していた。

アナウンサーを志望する友人たちが大学に通いながらアナウンススクールなどに通っている中、佐々木さんは選挙のウグイス嬢など、「しゃべり」のバイトで収入を得ながら経験を積んで一石二鳥。人に伝える話

し方を実践で学び、アナウンサー業界に関する情報収集にも余念がなかった。しかし、それでもどこかで自分には無理との思いもあり、公務員への道も模索しはじめていたという。ちょうどその頃、「山形県でスポーツレクリエーション祭」という全国的なイベントがあり、そのキャンペーンレディに応募し、20数倍の倍率を勝ち抜いて見事合格。自分にもチャンスはあるかもしれないという自信につながった。大学の就職担当者の薦めでフジテレビを記念受験したこともいい経験となった。サークルや飲み会に行く暇はなくても早朝から時間があり、毎日、釜山に登った。そこで先輩の友達がたくさんできて山形のいいところや温かさになつぷり触れた。周囲の学生たちとはまったく別次

元で大学生活をエンジョイしたとも言える。

そんな忙しくも充実した日々を送る中、すっかり山形が好きになってしまった佐々木さんは、山形での就職を希望。持ち前の元氣と普通の女子大生とはひと味違ったアピール力で現在の局アナの座を射止めたのだった。本当は、テレビユー山形のアナウンサーは県内出身者とされていたのだが、佐々木さんの場合は山形大学卒業ということで準山形県出身者と認められたようだ。新学期には大学で「山大ライフを創ろう！—先輩は教科書—」というタイトルの講義があり、その1回分を担当することになっている。明るく飾らない人柄が魅力の人気アナウンサーの講義となれば、教室は受講を希望する後輩たちでいっぱいになるに違いない。

今回のランナー:



佐々木 瞳

ささきひとみ ●秋田県出身。
平成13年人文学部卒業。
株式会社テレビユー山形勤務。
夕方のニュース番組で
キャスターとして活躍。自
らカメラを持って現場に飛
び出し取材もこなす。



朝比奈 孝明

あさひなたかひろ ●栃木県
出身。「第一回山形大学雪
合戦大会」の実行委員長と
して、各学部の実行委員と
ともに大会を成功に導いた。
忙しさの中に学生生活への
充実感をかみしめている。



小栗 拓馬

おぐりたくま ●福島県出身。
理学部物質生命化学科1年。
大学コンソーシアムやまが
た支援事業「科学で山形盛
り上げ隊」代表。科学を身
近に感じてもらえる活動に
参加していきたいと意欲的。



1 決勝戦当日は天候にも恵まれ、全学部から参加した20チームが熱戦を繰り広げた。これまで、サークル同士の交流はあっても他学部間の交流は少なかったもので、雪合戦大会が交流を深める良い機会になった。



2 『就活の風』は年4回発行。大学院生も含めた14人の編集メンバーで製作している。工学部の学生に必要とされる旬な就活情報を発信していること、編集会議では毎回、活発な意見が出される。

3 学生、職員に健康を考慮してもらおう場として、また交流の場となることを目的に生協の学生会委員で企画したソフトボール大会。こうした経験を重ねていくことで、企画する楽しさや充実感を感じるように。

学部の交流が深まった雪合戦大会は、大学生生活の集大成。こうした経験が、人を笑顔にできる仕事へと繋がっていく。

交流の成果

朝比奈 孝明 工学部電気電子工学科4年

今年、工学部は創立100周年を迎える。様々な記念事業が企画されているが「第一回山形大学雪合戦大会」もその一つ。朝比奈さんは実行委員長として企画運営に携わってきた。「雪＝マイナスという意識をプラスに変えていきたいと思い、企画しました。でも、第一回目ということで、どんなことを話し合い、どういう準備をしていったらいいのか、ゼロからのスタートでした。」と話す、朝比奈さん。参考にしたのは、北海道の「昭和新山国際雪合戦大会」の公式ルール。また、宮城県にある雪合戦連盟からA級・B級審判を招き、審判講習会を行った。雪の無い時期は屋内用の雪合戦用の球を使い、体育館で練習会を開いたりも。これほどまでに力を注げる理由を聞いてみると、「参加してくれる人たちの気持ちが

結果として返ってくるところにやりがいを感じて。」との答えが。事実、取材に訪れた決勝大会の日も、工学部だけでなく小白川、鶴岡キャンパスから参加した実行委員や学生たちの熱気で会場は溢れていた。

朝比奈さんの積極性は、雪合戦大会だけに留まらない。工学部で発行している『就活の風』の編集スタッフとしても活躍。学生にアンケートをとったり、OBに取材し学生たちへメッセージをもらったり、米沢のローカルな話題等、様々な情報を発信している。また、生協の学生会委員としての顔も。学生の立場で、生協に対して寄せられた意見や要求を汲み取り、いかに組合員に還元できるかを話し合い、改善していく。以前、学生会委員会でソフトボール大会を企画したことがあった。生協を通し、健康に

ついて考える活動の一環として行なったものの。参加者からの“笑顔”のレスポンスに企画・運営の楽しさと充実感を感じたという。その時に100周年記念事業の実行委員の話が舞い込んできた。「編集作業は雪合戦のパンフ作り等に、生協の学生会委員の活動では話し合いのスキルを学ぶことができました。私にとって大学生生活の集大成が雪合戦大会なんです。」

現在、研究室では視聴覚障がい者の携帯型点字システムを開発している朝比奈さん。今後は大学院に進み、いずれは携帯と接続し、健常者と障がい者が容易に受送信できるシステムをつくり出したいと考えている。人の助けになること、社会貢献できることを…大学生活での貴重な経験が将来の夢につながっている。

大型ショッピングモールで歌って踊って実験して、科学の不思議やおもしろさをみんなに伝えたい。

融合の成果

小栗拓馬 理学部1年

科学を通していろんな体験をしていきたいと、小栗さんは1年生ながらさまざまな活動に参加している。「科学で山形盛り上げ隊」もその一つで、山形大学と山形短期大学（※4月より東北文教大学）の学生たちが合同で実施している平成21年度大学コンソーシアムやまがた支援事業。メンバーは2大学合わせて約30名、小栗さんが代表を務めている。さまざまな科学イベントを企画し、参加可能なメンバーが随時、運営にあたっている。

2月の第一日曜日、「科学で山形盛り上げ隊」メンバーは山形市内の大型ショッピングモールで科学イベントを開催していた。これまでもサイタセンターや学童施設など、限られた空間での実験イベントは行ってきたが、

今回のようなオープンスペースでのイベントは初めて。どれくらい人が集まってくれるのか、実験はうまくいくのか、ドキドキで当日を迎えた。休日のショッピングモールは家族連れで大賑わい。「科学で山形盛り上げ隊」のコーナーにもたくさんの子もたちが集まってくれた。この日のイベントの目玉は幼稚園児とのコラボレーションダンス。「トスイヘリーベ、ボクノ〜」、あのおなじみの周期表の元素記号をモチーフにした歌『レッツゴー実験カー』に合わせて学生と園児がダンスで競演。楽しい歌とダンスを通して科学を身近に感じてもらうというのが狙い。小栗さんもステージ上で少し照れながら踊りを披露していたが、練習量に勝る園児たちに終始、圧倒されていたようにも見受けられた。

また、太陽コピーやシャボン玉コーナーでは小栗さんも子どもたちといっしょに遊びながら科学の楽しさをアピール。科学のことはわかっていても小さい子どもたちとの接し方はどこかぎこちない山大生。その点、山形短期大学子ども学科の先生や学生たちは、さすがに子どもたちの心をつかむのが上手。二つの大学それぞれの専門分野を活かせるいいイベントとなった。今回の経験を機に、理科の先生という将来の選択肢もありかと思ったという小栗さん。今後は、高齢者を対象とした科学イベントにも挑戦してみたいと考え中。科学の不思議は、きっと世代を越えて人々を魅了し、おじいちゃんおばあちゃんの瞳を好奇心で輝かせてくれるのではないだろうか。



1

1 一見、どこにでもあるシャボン玉遊び。実はここにも科学の力。小さな子どもを抱っこしてシャボン玉を楽しませてあげている様子。小栗さん自身もとても楽しそう。体力的にはかなり疲れたが気持ちは充実。



2



3

2 科学とダンスの融合。2010年化学オリンピックのプレイベントの応援歌『レッツゴー実験カー』に合わせて園児たちといっしょにダンス。ノリノリの楽しいダンスは、東北文教大学の深瀬教授に振り付けしていただいた。

3 「科学で山形盛り上げ隊」の他のメンバーも子どもたちの実験の指導やサポートに追われた。歓声や笑い声で会場は大にぎわい。「ありがとう」「楽しかった」そんな子どもたちの声に学生たちも満足げな表情を浮かべた。



サイエンスカフェ スタッフ募集

問い合わせ・申し込み
大学コンソーシアムやまがた事務局
Mail unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
TEL 023-628-4842
FAX 023-628-4078
URL <http://unicon.kj.yamagata-u.ac.jp/>

人文学部国際学術講演会を開催しました

人文学部では、国際理解を深めるために、毎年、国際学術講演会を実施しています。

今年度第一回目は、去る1月21日(木)に人文学部205教室を会場とし、韓国・全南大学校人文学部・日語日文学科主任教授の李徳培氏を講師に迎え、教職員、学生、大学院生、一般の方を含め約60名の参加の下「韓日和解への歩み」と題した国際学術講演会を開催しました。

講演では、古来より、政治的・経済的に密接な関係を築いてきた韓国と日本との関係を、歴史的文化的側面から取り上げた貴重な話がありました。

近年、文化、芸能面で身近となった韓

国との関係を考える上で、同国の専門家による講演を聴くことができたことは、学生諸君にとっても国際関係についての体系的な知識を得る重要な経験となりました。

また、2月20日(土)には「共振する東アジア ―現代東アジアの文学交流」と題して、東アジアにおける文学交流にスポットを当てた今年度第二回目の国際学術講演会を開催しました。

日本と東アジアは、文学や大衆文化など様々な面で交流が活発化し、年々、相互に影響力を増しています。特に昨今の、日本(語)文学ブームや日本アニメブームは、現代の文学を通し、互いにど

のように関わり合い、共振し合っているのかを探求しました。村上春樹等の作家から、漫画や大リーガーの松井秀喜の話まで、アメリカ・中国の著名大学や東京大学・東北大学等の内外の第一線の研究者による刺激的な考察が、東アジアを中心に世界をめぐるしました。

プログラム

■第一部報告:13:00～14:55

森岡卓司(山形大学人文学部准教授)

「日本を語る日本語の地政学

―東アジア・日本・アメリカ―

Faye Kleeman(コロラド大学アジア言語文明学部准教授)

「世界文学としての日本(語)文学の可能性

―越境、受容とグローバリズム―

佐野正人(東北大学大学院国際文化研究科准教授)

「戦後日本文化の中の東アジア」

■第二部報告:15:00～17:30

于桂玲(ハルビン工業大学外国語学院准教授)

「『失楽園』はどう読まれるのか

―中国における渡辺淳一文学の受容―

藤井省三(東京大学文学部教授)

「村上春樹と中国」



講演会の様子



李教授の講演

CCY活動紹介

人文学部4年 田中 百合

私たちCCY (Cherish Club Yamagata) は、日本語を母語としない子どもたちの学習サポートを目的とした学生ボランティア団体です。CCYでは毎週日曜日の午後に、外国出身の子どもや外国にルーツを持つ子どもたちのための学習教室を開催したり、年2回「お楽しみ会」や「クリスマス会」を開催して、CCYの子どもと山形市内の小中学生との交流の場を作っています。また、外国出身児童が抱える問題などについて理解を深め、ボ

ランティアメンバーのスキルアップをはかるため、「ブラッシュアップ会」という勉強会も開催しています。

今年度も毎週日曜日の学習教室の他、8月に夏期講習とお楽しみ会、12月にクリスマス会、11月と2月にはブラッシュアップ会が開催されました。また、最近では無事に高校受験を乗り越えた子どもたちからの、嬉しい報告も入っています。「先生！合格したよ！」という子どもの晴れやかな表情を見るのは本当

に嬉しいもので、その子と今まで一緒に頑張ってきたことを考えると、思わず涙が…！このような嬉しい瞬間があるから、やめられないと毎年思います。

そして私たちは教科学習サポートだけではなく、CCYが子どもたちの心の拠り所となるように、学生ボランティアと子どもたち、そして同じ国出身の子ども同士や他国出身の子ども同士など、人と人との交流を大切にしています。特に山形県のような、外国にルーツを持つ子どもが散在して居住している地域では、同じような背景を持つ子ども同士が出会う機会は多くはありません。子どもたちが、母語で思いっきり話したり、同じ背景を持つ友達を作ったりできるチャンスをCCY学習教室が提供できれば、この上ない喜びです。



夏のお楽しみ会での1コマ☆じゃんけん列車☆



全員集合！クリスマス会

小白川キャンパス トワイライト開放講座(前期開講分)



小白川キャンパスにある人文学部、地域教育文化学部及び理学部が開講している授業科目を高校生の皆さんにも「トワイライト開放講座」として、広く開放いたします。この機会に、山形大学キャンパスで大学生と一緒にさまざまな講義を体験してみましょう！

	人文学部	地域教育文化学部	理学部
日時	4月～7月		
	毎週木曜日	毎週月曜日 または金曜日	毎週金曜日
	16:30～18:00		
場所	各授業開講学部講義室		

講義内容

【人文学部】

「人間文化入門総合講義」、「総合講座Ⅲ(経済・経営)」

【地域教育文化学部】

(地圏物質科学の授業で1回のみ土曜日に

野外実習があります。)

「合唱:混声四部合唱の響きを楽しもう」、「地圏物質科学」、「教育原論(西洋の教育思想)」

【理学部】

「サイエンスセミナー」

対象/高校生(理学部の授業科目は一般の方にも開放します。)

受講料/無料

その他/詳しい内容は、開講学部のホームページに掲載します。授業の開始日や休講日などご注意ください。

問い合わせ/人文学部学務担当

TEL 023-628-4709

式典行事

平成22年度 山形大学入学式

日時/4月5日(月) 10:30～

場所/山形県体育館(山形市)

工学部創立100周年記念式典

日時/5月4日(火) 13:00～

場所/東京第一ホテル米沢

問い合わせ/工学部企画総務チーム

TEL 0238-26-3005

農学部附属やまがたフィールド科学センター 上名川演習林入山式

日時/5月6日(木)

場所/農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林(鶴岡市)

新入生保護者の皆さまと山形大学の交流会

日時/5月29日(土) 14:00～17:30

場所/小白川キャンパス基盤教育2号館
2階講義室

対象/平成22年度新入生の保護者

問い合わせ/総務部総務ユニット

TEL 023-628-4006

公開講座等

人文学部

海を渡った“Japanese”

海を渡った様々な“Japanese(日本人・日本的なもの)”をキーワードに、我々が異文化を受容してきた歴史的背景、逆に海外で受容された“Japanese”の諸相を探ります。

日時/6月7日(月)～21日(月)の毎週月、
木曜5日間 18:30～20:10

場所/人文学部講義室(山形市)

対象・募集人員/一般の方、大学生、高校生 30人

参加費/2,000円(ただし、大学生・高校生は無料)

問い合わせ/人文学部総務チーム

TEL 023-628-4203

地域教育文化学部

大人のピアノ教室

子供の頃ピアノを習ったのに、今は全くピアノを弾くこともなく、もう少しピアノが弾けたらと思いながら、中々始められない大人の方に、習い始める機会を提供します。

日時/5月15日(土)、22日(土)

13:00～14:30

場所/地域教育文化学部1号館音楽鑑賞室
(山形市)

対象・募集人員/一般の方 10人

参加費/3,000円

問い合わせ/地域教育文化学部総務チーム

TEL 023-628-4304

Let's try!! もの作り教室

いろいろな「もの」を作ってみることで動作原理、材料の選び方、道具の使い方や加工方法、などを体験します。

日時/5月22日(土)、29日(土)、

6月5日(土)、12日(土)

10:00～12:00

場所/地域教育文化学部2号館

多目的第1実験・実習室(山形市)

対象・募集人員/親子 14組(28人)

参加費/2,000円

問い合わせ/地域教育文化学部総務チーム

TEL 023-628-4304

理学部

小さな科学者・体験学習会 わくわく化学実験ランド

日時/4月4日(日) 14:00～16:00

場所/SCITAセンター(山形市・理学部内)

対象・募集人員/小学4年生以上とその保護者 10組

参加費/無料

問い合わせ/SCITAセンター

TEL 023-628-4506



山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

工学部

電気エネルギーを生み出す最新技術

夢の発電手法として期待されている「核融合発電」や「太陽光発電」、放電のエネルギーの利用など、クリーンな環境での電気エネルギー問題に的を絞り考えます。

日時／6月26日(土) 13:30～17:30

場所／伝国の杜 大会議室(米沢市)

対象・募集人員／一般の方、学生(中高・大学生)
60人

参加費／無料

問い合わせ／工学部広報室

TEL 0238-26-3419

ミキシングコンファレンスin米沢

日時／5月28日(金) 9:30～16:30

場所／伝国の杜(米沢市)

対象／産学官研究者

参加費／5,000円

問い合わせ／大学院理工学研究科

高橋幸司研究室

TEL 0238-26-3156

モバイルキッズケミラボ2010

日時／5月～11月の土曜日 午前 計15回

場所／米沢市教育委員会理科研修センター

対象／主として米沢市内小学校4年生以上の
児童と保護者、および地域のリーダー

参加費／無料

その他／大学院理工学研究科(主として物質化学工学分野)の教員が実験指導を行います。

問い合わせ／米沢市理科研修センター

TEL 0238-22-5111

(内線6407)



ロボラボサタデー

目指せ、ロボットクリエイター

日時／6月5日(土)～7月17日(土)の

毎週土曜日

10:00～12:00(7回シリーズ)

場所／工学部(米沢市)

対象／小学校5、6年生

参加費／無料

問い合わせ／米沢市児童会館

TEL 0238-23-0161

農学部

農学部紹介講座

農学のタベ

農学研究を、気軽に広く知って頂く企画です。食育、有機農業、バイオテクノロジー、環境問題等について、毎週各分野の教員が研究の今を語ります。

日時／5月6日(木)～1月13日(木)(予定)

原則として木曜日の18:00～19:30

場所／農学部3号館(鶴岡市)

対象者／一般の方、大学生、高校生

受講料／無料

その他／詳しい内容は、確定次第農学部HPに掲載します。

問い合わせ／農学部事務ユニット学務担当

TEL 0235-28-2808

わんぱく農業クラブ

年間を通して、楽しみながら農業体験を行い、農業や農村文化の理解と関心を深める。また、稲やその周辺の動植物の観察、食料・環境問題の学習など、様々な観点から学習することで、幅広い視点を養うプログラムです。

日時／5月～11月 計7回

(毎月1回 土曜日 9:00～)

場所／農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場(鶴岡市)

対象・募集人員／市内小学校3～6年生の児童と保護者 30組(先着順)

その他／詳しい内容は、確定次第農学部HPに掲載します。

問い合わせ／農学部事務ユニット

附属施設チーム

TEL 0235-24-2278

農場市

今年も旬の採れたて農産物・加工品(米、野菜、果物、ジュース、ジャムなど)の販売を行います。

日時／6月24日(木)～11月25日(木)

原則、木曜日の12:00～13:30

場所／農学部キャンパス(鶴岡市)

その他／詳しい内容は、確定次第農学部HPに掲載します。

問い合わせ／農学部事務ユニット

附属施設チーム

TEL 0235-24-2278

附属学校

附属幼稚園

公開研究協議会

日時／6月11日(金) 9:00～16:30

場所／附属幼稚園(山形市)

対象・募集人員／一般・学生の方

参加費／一般3,000円 学生2,000円

問い合わせ／附属幼稚園

TEL 023-641-4446・4447

すこやか広場

日時／6月22日(火) 14:30～15:45

場所／附属幼稚園(山形市)

対象・募集人員／2～3歳児 親子50組

参加費／1組200円

問い合わせ／附属幼稚園

TEL 023-641-4446・4447

附属小学校

学習指導研究協議会

日時／6月4日(金) 8:30～17:00

場所／附属小学校(山形市)

対象・募集人員／一般・学生の方

参加費／一般3,000円 学生2,500円

問い合わせ／附属小学校

TEL 023-641-4443

附属特別支援学校

学校説明会

日時／6月8日(火) 10:00～12:00

場所／附属特別支援学校

対象／特別支援学校への就学・進学について知りたい方

その他／事前に申込みが必要です。

問い合わせ／附属特別支援学校

TEL 023-631-0918

学校公開週間 (オープンスクール)

日時／6月21日(月)～25日(金)

10:00～12:00

場所／附属特別支援学校

対象／特別支援学校の教育に興味のある方

その他／事前に申込みが必要です。

問い合わせ／附属特別支援学校

TEL 023-631-0918

山形大学 校友会

山形大学の学生、卒業生、役員、教職員(退職者含む)及び本会の趣旨に賛同いただいた方々が相互の連帯感を強め、学生の学業及び課外活動等学生生活の全学的な活動に支援を行い、健全な成長を援助するための組織として、平成18年12月に「山形大学校友会」が設立されました。

校友会は、前記の活動に支援を行うとともに、各キャンパス間の一体感を醸成し、加えて会員相互の親交を図ることを目的として、「学生の修学支援」「学生の課外活動支援」「学生の就職支援」「保護者との連携支援」等の事業を行っています。

平成21年度の主な支援事業

- 成績優秀な学生に対する留学支援
- 大学間交流協定大学への短期派遣留学生支援
- 学部対抗雪合戦への支援
- 4キャンパス間大学祭等学生交流への支援
- サークル活動等に対する遠征費等の支援
- 学部を超えた学生の交流・活動への支援 等

つきましては、皆様におかれましても、本会設立の趣旨に御理解、御賛同いただき、是非とも校友会に加入いただきますようお願いいたします。



平成21年度支援事業「第1回学部対抗雪合戦決勝大会」の様相
詳細は本誌11頁に掲載

お問い合わせ先

校友会事務局(山形大学エンロールメント・マネジメント室)

TEL 023-628-4062 FAX 023-628-4185

E-mail ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学校友会ホームページ

<http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>

「山形大学 未来基金」 ご協力をお願い



何よりも学生を大切にする大学を目指して

山形大学は、何よりも学生を大切に、21世紀の社会に貢献できる、「豊かな教養」と「優れた専門性」を備えた人材育成を目指して、大学運営を進めています。

その一つが、学生が存分に勉学に励み、安心して生活できる教育・研究活動を整備することを目的に創設した「山形大学 YU Do best 奨学金」であり、既に32名の奨学生を輩出しました。この奨学生への奨学生証授与式は入学式の式典内で執り行われ、奨学生代表者からは、新入生の模範となるべく熱い抱負が述べられ、また、新入生には本学での勉学に励む目標となっております。

そして、この奨学金の原資として創設されたのが、この「山形大学未来基金」です。この「山形大学未来基金」が創設され2年が経ち、保護者をはじめ、地域の企業の皆様など、各方面の方々からご支援をいただいております。

今後とも、「山形大学未来基金」を充実するとともに、本学から優秀な人材をより多く輩出するため、皆様からのより一層のご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ先 山形大学総務部総務ユニット TEL 023-628-4006

編集後記 Editor's Note

今回は、山形大学の創立60周年を記念した特集です。ノーベル物理学賞を受賞された小林誠先生の学術講演会や新たに制定された「山形大学大学歌」などを紹介しています。表紙の撮影では、式典が始まる直前の慌ただしい時間にもかかわらず、ポーズの注文も快く受けていただき、小林先生のお人柄が偲ばれました。今回の記事はいかがでしたでしょうか?この号が皆様のお手元に届く頃には、新たな気持ちで新生活をスタートされた方も多いと思います。みどり樹も新しい試みを取り入れながら、皆様に興味深く読んでいただけるような話題をお届けできればと思います。今後ともご愛読のほどよろしくお願いいたします。

(みどり樹編集委員会委員 M.F.)

表紙のことば

去る3月13日に執り行われた山形大学60周年記念式典及び学術講演会の当日、開式を前に実現したノーベル賞博士の小林誠氏と結城章夫学長のツーショット。会場へのアプローチでの撮影とあって多くの参列者の注目を集めた。

- この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧になれます。

山形大学 みどり樹 検索

- 「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にお寄せください。
E-mail: sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

- 「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

—地域に根ざし、世界を目指す—



山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>